

芭蕉句碑巡り(愛知県)豊橋市 1

R2.7.3(金)

江戸時代に吉田藩が置かれ、湊町、城下町、宿場町として栄えた吉田。明治になると豊川にかかる豊川大橋にちなんで豊橋と改名されました。豊橋に残る句碑も巡ってみましょう。

① こを焼て手拭あふる寒さ哉

【所在地】豊橋市下津町 3-3 聖眼寺

「芭蕉翁」墓石は江戸中期の白隠禅師筆。

明和6年(1769)建立。「笈の小文」に収められた句の意味は、「ご(松の枯葉)を焼いて手拭をあふるほどの寒さだなぁ。」



「こを焼て」の句

② 寒けれと二人旅ねそこのもしき

【所在地】豊橋市湊町 1 築島弁天社

神明社の脇の築島にある弁天社。昭和7年建立。

「笈の小文」に収められた句の意味は、「同行二人の旅寝を共にする友人がいる。だからこの厳しい寒さも苦にならない。」



「寒けれと」の句

③ あちさみや藪を小庭の別座敷

【所在地】豊橋市二川町東町 101-1 妙泉寺

寛政10年(1798)に建立された「紫陽花塚」がある。俳人の滝崎定丸らの建立。

「俳諧別座敷」に収められた句の意味は、「私が呼ばれた別座敷は自然のままの庭で、そこは雨を待つように紫陽花が咲いている。」



「あちさみや」の句